

令和3年度第8回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和3年11月17日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
オブザーバー: 小山 静代(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事務局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
山田 涼子(感染症対策推進課 技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:大西委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

〇ぎふ感染症かわら版の発行について
(事務局から)

県民に対して野生動物が媒介する感染症への注意喚起(野生動物に近づかないよう)を、「ぎふ感染症かわら版」にて行いたいと考えています。このことについてアドバイスをお願いします。

(委員から)

一般への動物由来感染症の発信については、現場で対応している獣医師からの意見を聞くことが重要だと思う。行政として同分野と接点もあると思うので、獣医師からの意見を取り入れる方法を考えることも一案だと思う。

〇梅毒(特に早期顕症)における背景要因について(継続)
(事務局から)

2021年は女性の早期顕症梅毒の報告数が非常に少なく、近隣他県でも同様の傾向があるのか調査するため、愛知、岐阜、三重の3県での経年変化を調査しました。その結果女性の早期顕症梅毒の報告数に、3県で共通した減少傾向はみられませんでした。

(委員から)

- ・近隣2県で減少傾向がみられることから、女性の場合は性感染症へのリスクコントロールが有る程度できているようにも見える。女性に対しては、性感染症予防への啓発活動の効果が、浸透しているのかもしれない。
- ・一方で男性の場合は増加傾向がみられるので、女性とは異なる要因があるようにも思える。
- ・データによると、定点把握対象疾患ながら、男性の淋菌患者の報告数は岐阜県で減っているように見える。梅毒との発生動向の違いに何か原因があるようにも思える。

【その他（感染症対策推進課から）】

- ・高病原性鳥インフルエンザが疑われる事例の発生について
- ・今冬のインフルエンザ総合対策の推進について
- ・季節性インフルエンザワクチンの供給量について（令和3年10月時点の最新情報）